

第2回FDシンポジウム(2009年9月12日)

法学部における入学前教育・初年次教育の取組

法学部 辰野文理

法学部における課題 1

- 学力のばらつき、基礎学力の不足
 - 入試の多様化に伴い学力試験を経ない学生が半数
 - 定数充足に重点が置かれた合否判定



- 学習経験の不足から来る学習意欲の低さ
- 学力不足に伴う自己評価の低さ
- 学部内、学科内での学力差

法学部における課題 2

- 不本意入学者の存在
 - 第1志望校ではない
 - ランクを下げての入学(確実性を求めた選択)



・第1志望の割合
法44%、現ビ57%
・第3志望以下の割合
法38%、現ビ23%

- 消極的な受講態度
- 周囲や大学との関係作りに消極的
- 目標の喪失
- 他校受験、資格受験のみを意識

法学部における課題 3

- 精神的に不安定な学生の存在
- コミュニケーション力に欠けた学生の存在
- 情報収集力が弱い学生の存在



- 他学生、教職員とのトラブル
- グループ活動場面での孤立
- 連絡事項等への反応の遅れ

入学前教育の変遷及び課題

- 合格者を集めての講義
- レポート課題の提示及び添削
- 業者に委託してのレポート添削
- 業者に委託しての英語問題
- 課題図書のと約問題及び添削



教員の負担大、高コスト(業者委託)、
効果の有無が不明確

初年次教育の変遷

- 平成14(2002)年
 - 新入生向け科目設置の検討を開始
- 平成16(2004)年
 - 運営委員会の設置
 - 共通教材の作成
- 平成17(2005)年
 - 新入生向け科目「プレゼミA・B」開始
- 平成18(2006)年
 - 新入生向け科目「入門ゼミ」開始

プレゼミA・B(法律学科科目)

- 新入生向け必修科目
- 春semesterでは大学入門、秋semesterは法学入門
- 週1回(共通曜日・時間に複数クラス開講)
- 1クラス25人程度(無作為に振り分け)
- 全専任教員が担当(春・秋は別の教員)
- 共通シラバス、共通テキストを使用

目的は・・・学校への適応を促進する
学習意欲を高める
仲間作りの場を提供する

脱落者防止

プレゼミで扱う主な項目

- 大学を知る
- 講義に参加する
 - ノートとり、質問
- 資料収集
 - 資料検索
- 資料を読む
- 議論する
- レポートを書く
- 発表する
- 将来を考える

プレゼミAの構成(毎年4月～7月)

- 1 オリエンテーション(自己紹介など)
- 2 大学の制度や仕組みを知る(授業、単位など)
- 3 大学での学習①(ノートの取り方)
- 4 大学での学習②(本の読み方・要約の仕方)
- 5 大学での学習③(図書館の活用)
- 6 大学での学習④(討論・発表の仕方)
- 7 法学部主催講演会
- 8 キャリア・ガイダンス(4年後の自分を描いてみる)
- 9 レポートの書き方①(レポートの書き方の手順を知る)
- 10 レポートの書き方②(レポートの形式を知る)

参考文献、レポート用紙、原稿用紙

*複数回によって実施する項目がある。


プレゼミBの構成(毎年9月～翌年1月)

- 1 オリエンテーション(秋期の授業方法など)
- 2 法律・判例記事の読み方(新聞を題材にして・六法の利用)
- 3 法律文献の利用方法(図書館での検索)
- 4 映像でみる法律問題(2回連続)
- 5 裁判員制度について
- 6 法学部(法律学科)主催講演会
- 7 法学入門①(公法)
- 8 法学入門②(私法)
- 9 法学入門③(刑事法)
- 10 法律討論会／模擬裁判への参加
- 11 法律レポート・答案の書き方

参考文献、レポート用紙、原稿用紙

*複数回によって実施する項目がある。

グループ作業／グループでの議論

- ノートをとる
 - 新聞を読む
 - レポートのアウトライン作成
 - グループ内での議論
 - 例:大学の授業と高校の授業の違いについて
- グループでの作業  全体に向けて発表
- グループ作り-----適正サイズは
 - ・グループ分け(例:トランプ)
 - ・席の移動(自主的な動きに期待)・役割の設定・名札の作成

講演会／学部行事への参加

- イラク古代文明
- 法学
- A E D
- 終身刑
- 薬物
- 悪質商法
- 模擬裁判
- 法律討論会

プレゼミの効果

- 少人数クラスでのグループ活動中心
- 学習スキルの習得に重点



- 能動的学習の促進
- 大学生生活の目標や目的の発見
- 2年、3年のゼミナールへの準備
- 居場所作り、帰属意識の定着
- 脱落予備軍への早期対応

プレゼミの課題

- クラスサイズおよびクラス編成
 - 少人数クラスの設定と教員数
 - 入試区分毎のクラス編成の適否
- 評価方法および評価基準
 - グループ作業の評価
 - 再履修クラス設定の困難さ
- 教員の負担
 - 課題に対する添削
 - グループワークの実施

教員の
不足

FDとの関連 1

- 準備段階における学部内の議論
 - 学部教育における問題点の抽出・共有
 - 初年次教育科目の性質および扱う内容の検討
 - 共通テキストの作成、教材(図書、映像)の選定
- 「大学の講義」そのものを扱う内容
 - 授業方法を点検する機会
- グループワーク主体
 - 各学生の反応を観察する必要性
 - 新しいスキルの習得

FDとの関連 2

- 合同授業・講演会の設定・実施
 - 複数教員が授業参加
 - 意見交換／共同作業
 - 教員同士のやりとりを観察する機会
- 学科会議等での定期的な意見交換
 - 担当クラスの状況把握
 - 工夫点、問題点、課題等に関する意見交換
 - 情報の共有

入学前教育・初年次教育の課題

- 少人数教育を実施するための教員数の確保
- 外部委託先の選定、外部委託の費用
- 効果の測定
- 入学前教育と初年次教育のつながり
- 上級生の関わり

検討中の事項・・・まとめにかえて

- 入学前から卒業までの個人を軸とした教育
 - 個人の学習履歴を記録・ポートフォリオの導入
- 入学前から入学後に継続する指導・助言
 - 入学後の学習目標の設定
 - 各種懸賞などの紹介
 - 資格受験、海外留学の紹介
- リーダー的学生の育成
 - 周辺学生に対する波及効果

学習意欲の
刺激